



みそのだより

令和7年9月1日
学校だより 9月号
板橋区立三園小学校
みどりの学びのエリア

合い言葉『生き生き 学びの三園小』

よりよい学校、社会をみんなでつくる

校長 和田 幹夫

長い夏休みが終わり、子供たちの元気な声が、学校に戻ってきました。今年の夏も、記録的な暑さに見舞われましたが、大きな事件や事故等に遭うことなく、元気にこの2学期を迎えられたことを何よりもうれしく思います。そして、ラジオ体操やスイカ割り、盆踊り、阿波踊りなどの地域行事、自然や様々な人々とのふれあい、自由研究や読書、スポーツ、お手伝いなど自分で決めた主体的な取組など、夏休みならではの経験を通して、子どもたちは、心も体も大きく成長できたのではないかと思います。これも、保護者及び地域・関係機関の皆様のご協力のおかげと存じます。誠にありがとうございました。

さて、今年の夏は、「戦後80年」という大きな節目でもありました。広島に原爆が投下された8月6日、長崎に原爆が投下された8月9日、そして、終戦を迎えた8月15日には、平和祈念式典や戦没者追悼式などの式典、また、それに伴う報道やテレビ番組などを通して、皆様も、子どもたちも戦争や平和について思いを寄せられたことと思います。

戦後80年のこの夏、私が最も心に残ったのは、広島市の平和記念式典において述べられたこども代表による平和の誓いです。その中で、二人の小学校6年生は、「大人だけでなく、こどもでもある私たちも平和のために行動することができます」と強く訴えます。

「その事実(世界では、今もどこかで戦争が起き、大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいること)を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、

傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。」

「One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。」

人と人とが尊重し理解し合うこと、そして互いに寄り添い、相手の立場に立って考えること、まずは、人と人とのあたたかいつながりをつくっていくことが世界平和につながっていくのです。そして、その、始まりは「自分」です。決してこども代表の二人だけではありません。総理大臣や大統領だけでもありません。私たち一人一人こそが、平和な世界を創っていく担い手であり、スタートなのです。

また、この言葉を聴いて、改めて「学ぶこと」の大切さも強く思いました。一つの声が、変化をもたらす力をもつことができるのは「事実から学んだ」からこそだと考えます。「事実から学ぶ」とは、あった出来事や事象をゆがめることなくしっかりと見つめ、多角的・多面的に考えること、実際に関わった方、体験した方々の話に真摯に耳を傾け、対話的・協働的に学ぶことだと思います。

この2学期、三園小学校も創立60周年という大きな節目を迎えます。私たちも、三園小学校や三園のまちの歩みを振り返りながら、クラスや学年の友達、地域や関係機関の皆様と共に学び、まず、自分から、そして、よりよい学級、学校、地域づくりから行動に移していきたいと思えます。2学期もどうぞ、よろしくお願いたします。

<子供たちの様子に心をくばって> (※「夏休み直前号」再掲)

不安が大きくなりやすいこの時期、あたたかく子どもたちを見守ってあげてください。気になることなどがありましたら、担任までご連絡ください。

【子供にいつもと違う様子や小さな変化が見られることはありませんか】

○表情や態度の変化(目線、沈んだ表情、感情の起伏等)、身体や服装の変化(食欲、起床や睡眠、服の破損等)、行動や人間関係の変化

【子供の変化に気付いたら声をかけてあげてください】

「どうしたの? 何かつらそうだし、とても心配しているよ。」「なんか元気がないようだけど大丈夫?」

「力になれることはある?」(よく話を聴くことがポイント。最後まで丁寧に話を聴いてあげてください。)

【家庭での対応に困ったら】

○ぜひ、学校や関係機関にご相談ください(学校電話 03-3930-8934)。(本校ホームページにアップ)

